

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1300 号	氏名	岡田 怜美
学位審査委員	主 査 永田 康浩 副 査 中尾 一彦 副 査 酒井 英樹		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、成人生体肝移植における胆道再建術後の合併症である胆管狭窄に対する内視鏡的治療の観点から胆道スプリントの有用性を検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>長崎大学移植・消化器外科で施行した成人生体肝移植症例のうち、胆管 - 胆管吻合による胆道再建症例 148 例を対象とし、術後胆管狭窄に対し内視鏡的治療介入を要した症例を、内視鏡的治療成功群と不成功群に群別し、胆道スプリント留置の有用性について臨床データを基に解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、3 か月以降の狭窄例に対しては内視鏡的治療は有効であると考えられ、胆道スプリントを留置し早期胆管狭窄を予防することで、その後の胆管狭窄に対する内視鏡治療の成功につながる可能性が示唆され、今後の生体肝移植治療への寄与が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は生体肝移植治療の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			